

令和4年度 第2回中和地区3市1町自立支援協議会就労支援部会

議事録

日 時：令和4年7月21日（木） 14時～15時40分

場 所：香芝市役所会議室棟2階・第6会議室

出席団体：大和高田市・香芝市・葛城市・広陵町・西和養護学校・明日香養護学校・
大淀養護学校・葛城市社会福祉協議会・生活支援センターブリッジ・
ダイアリー・高田園・あっとほーむ香芝・エイブル・アカデミア高田・
D-P O R T

案 件：①会長挨拶 ②山口農園からの周知 ③福祉事業所体験会
④行政実習のあり方 ⑤協議会のホームページでの事業所情報掲載

①会長挨拶

②山口農園からの周知

- 福祉事業所での受注業務、施設外就労（計量・野菜の袋詰めなど）の依頼。
- オーガニック野菜を行政と一体となりブランディングするモデル事業を実践している。
今後、農福連携を強化していく流れの中、障がいのある方の雇用の場を創出していききたい。
- 現段階では、雇用は検討していないが、施設外就労などをきっかけに、雇用促進を図る。
まずは「知ってもらう」ところから始める。

③福祉事業所体験会

- 目的は障がいのあるかたが自分で事業所を選択・判断できる情報取得の機会をつくること。10月～2月を目途に各市町で1回ずつ順次実施していきたい。イメージ的には就職フェアの福祉事業所版。就労移行、B型事業所から実施。各事業所でブースを設置し説明と体験を実施。橿原市では9月に就労移行の事業所を中心に開催される予定。
- 3市1町とも公共施設の提供は可能。調整が必要な場合もあるが土日も可能か。市によってはフェスタ等のイベントとの共催や物販も検討。
- 事業所の意見として、所在地の市町だけに参加するのか、それとも3市1町すべてに参加できるのか？
→事業所にはあちこちの市町からの利用者がいるので、どこでも参加可能といった意見が大半だったが、できれば1回がありがたいという希望もあった。その他、開催となればなるべく早く知らせてほしい、できるだけ多くの地域のかたに自分たちの事業を知って欲しいという意見があった。また、養護学校からは、障がいのあるかたにとって働くイメージを持てるのはプラスである、各市町で実施されれば分散して参加できることがメリット、といった意見が出た。
- 参加する事業所は就労系だけか？また、就労支援部会の部会員だけか？
→初回なので、モデル的にその方向性で考えている。公平性の観点からいかがか？

- ・祭りと一体ならいいのではないか。
 - ・あまり知らない事業者が参加されるのもどうか。今までに自立支援協議会に参加していた就労系以外の事業所は参加していただいていた方がいいのではないか。
- 部会だけに限定すれば納得できる要素があるのではないか。
- 参加する事業所の名前は伏せるのか？
- きちんと情報を伝えた上で、オープンでもいいのではないか。
- 作業の体験は必須か？
- 会場で実施できるツールがなければ、説明だけでもいいのではないか。できるだけ負担がない方法で臨機応変に。
- 実施曜日は、土日それとも平日？土日であれば事業所の負担もあるのでは。
- 今後検討。将来的には継続して開催したいという思い。
- 参加者のターゲットは？
- 今、事業所を利用しているかたを含めてすべてのかた。
- 需給のマッチングまでするのか？知ってもらっただけなのか？
- 興味があるかたに情報を得ていただく機会と考える。

【まとめ】

- ・部会参加の事業所を中心に、各市町で、所在を問わずに参加していただくのがよいのではないか。
- ・スペースの問題や、祭りと一体となれば協議会主導で実施できないことが懸念される。
- ・実施形態について、例えばイベントに関しては物販に特化してする、体験会に関しては分けて実施するなどいろいろな考え方があがるが、ある程度イメージの共有はできたと考える。
- ・SSTのデモンストレーションや、障がい福祉サービス制度の説明も企画。
- ・具体的なことは再度検討してから周知することとする。

④行政実習のあり方

- 長年各市町で、社会で働く経験の場として実施されてきたことで、一般就労を目指すきっかけになってきた。現在コロナ禍で実施が進まない状況もあり、改めてこれまでのことを振り返り、メリット・デメリットについて検討
- 事業所等の意見
 - ・働いた経験がないかたにとってもあくまで体験の場と捉えている。
 - ・実施の時期が決まっているのが難点。また、事務職のハードルが高い。
 - ・参加者にとって業務のイメージがつかみにくい。図とかイラストがあればわかりやすいのではないか。
 - ・何を求められているのか、目的は何なのかをはっきりさせることが大切。また体験の振り返りも重要。
- 行政の意見
 - ・本人の思いと合致しているのか、もくもくと作業してもらってしんどくないのかと感じた。
 - ・個人情報兼ね合いで簡易的なことしかしてもらえなかった。意義があったのかどうか。
 - ・人事部局とも連携し、受け入れの際には社会福祉課の専門職がバックアップできる体制

を整えたい。

【まとめ】

- ・社会経験の第一歩であり、参加者と行政の互いのすり合わせが必要。
- ・本人の状況を踏まえて業務内容の調整と振り返りが必要。また効果・成果をフィードバックして次年度につなげる取り組みが大切。
- ・事業所には、次回、参加希望者の層と人数を報告していただく。

協議会のホームページでの事業所情報掲載

○掲載情報の項目について（別紙参照）

- ・地域との連携の項目があるのはすごくよい。
- ・事業所タイプはこれでいいのか？
- ・空き状況を掲載するのはどうか・・・
- ・情報量が多いと後ろの方まで見てもらえないのではないかと。SNSを活用するのも1つの方法では。
- ・県HPを見てもわかりにくく、3市1町で集約する意味がある。
- ・ホームページアドレスとQRコードだけでもいいのでは。
- ・行政の立場では、情報として把握しておきたい。
- ・利用希望するかたからよく尋ねられるのは、工賃と内容と送迎についてが多く、1分くらいのムービーがあれば便利なのは。
- ・公開するかどうかは別として、情報があればありがたい。
- ・本人なのか、家族なのか、誰をターゲットにするのか。
- ・毎年の更新作業が大変。したいこととコストのバランスが難しい。
- ・そもそも事業所の所在地がわからないので、マップがあればよい。

【まとめ】

情報の可視化は必要である。全ての情報を公開することが前提ではないので、具体的な内容については、本日の意見を踏まえて整理する。

以上

*8月15日（月）15時～

エイブルにおいて部会長・副会長・事務局で振り返りを行う。